

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		Q 建築物の環境品質						2.7	
Q1 室内環境			0.40		-	2.7			
1 音環境		2.0	0.15	3.3	1.00	3.0			
1.1 室内騒音レベル	-	3.0	0.50	3.0	0.50				
1.2 遮音		1.0	0.50	3.6	0.50				
1 開口部遮音性能	住居部の開口部性能T-2	1.0	1.00	5.0	0.30				
2 界壁遮音性能	-	-	-	3.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	-	-	3.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-	-	-	3.0	0.20				
1.3 吸音	-	-	-	-	-				
2 温熱環境		1.0	0.35	2.1	1.00	1.9			
2.1 室温制御		1.0	0.50	3.3	0.50				
1 室温	-	1.0	0.63	3.0	0.63				
2 外皮性能	断熱性能等級4	1.0	0.38	4.0	0.38				
3 ゾーン別制御性	-	-	-	-	-				
2.2 湿度制御	-	1.0	0.20	1.0	0.20				
2.3 空調方式	-	1.0	0.30	1.0	0.30				
3 光・視環境		2.2	0.25	3.3	1.00	3.0			
3.1 昼光利用		3.0	0.30	3.0	0.30				
1 昼光率	-	-	-	3.0	0.50				
2 方位別開口	-	-	-	3.0	0.30				
3 昼光利用設備	-	3.0	1.00	3.0	0.20				
3.2 グレア対策		2.0	0.30	4.0	0.30				
1 昼光制御	カーテン、庇でグレア制御	2.0	1.00	4.0	1.00				
3.3 照度	-	3.0	0.15	3.0	0.15				
3.4 照明制御	-	1.0	0.25	3.0	0.25				
4 空気質環境		3.2	0.25	3.5	1.00	3.4			
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63				
1 化学汚染物質	建築基準法を満たしており、かつF☆☆☆☆を全面に使用している。	4.0	1.00	4.0	1.00				
4.2 換気		2.0	0.40	2.6	0.38				
1 換気量	-	3.0	0.50	3.0	0.33				
2 自然換気性能	居室面積の1/8以上開閉可能	-	-	4.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮	-	1.0	0.50	1.0	0.33				
4.3 運用管理		-	-	-	-				
1 CO ₂ の監視	-	-	-	-	-				
2 喫煙の制御	-	-	-	-	-				
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.1			
1 機能性		1.7	0.40	3.8	1.00	3.4			
1.1 機能性・使いやすさ		1.0	0.40	5.0	0.60				
1 広さ・収納性	-	-	-	-	-				
2 高度情報通信設備対応	各住戸に光ケーブルが利用可能となっている。	-	-	5.0	1.00				
3 バリアフリー計画	-	1.0	1.00	-	-				
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.0	0.40				
1 広さ感・景観	-	-	-	3.0	0.50				
2 リフレッシュスペース	-	-	-	-	-				
3 内装計画	-	1.0	1.00	1.0	0.50				
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計	内外共に防汚性の高い仕上材を採用している。	4.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保	-	3.0	0.50	-	-				
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30	-	-	2.9			
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-	3.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.1	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数	-	3.0	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	-	2.0	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床:フローリング、壁・天井:ビニールクロス	4.0	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水・給湯管にポリエチレン管、排水にはVP管を使用。	4.0	0.20	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-				
2.4 信頼性		2.4	0.20	-	-				
1 空調・換気設備	-	3.0	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備	-	2.0	0.20	-	-				
3 電気設備	-	3.0	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法	-	1.0	0.20	-	-				
5 通信・情報設備	-	3.0	0.20	-	-				

3	対応性・更新性		3.4	0.30	3.1	1.00	3.1
	3.1 空間のゆとり		-	-	3.2	0.50	
	1 階高のゆとり	階高=2.9m以上	1.0	-	4.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ	-	1.0	-	2.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり		3.0	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性		3.4	1.00	-	-	
	1 空調配管の更新性	ルームエアコンの為容易に更新可能	4.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	給湯器は各住居のバルコニーに設置	4.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	2.2
1	生物環境の保全と創出	-	1.0	0.30	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮	-	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	2.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.4
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	4.0
1	建物外皮の熱負荷抑制	断熱性能等級4	4.0	0.20	-	-	4.0
2	自然エネルギー利用	-	2.0	0.10	-	-	2.0
3	設備システムの高効率化	住戸部 BEI=0.86	4.8	0.50	-	-	4.8
4	効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	
	集合住宅の評価		3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	2.9
1	水資源保護		3.0	0.20	-	-	3.0
	1.1 節水	-	3.0	1.00	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		-	-	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		2.7	0.60	-	-	2.7
	2.1 材料使用量の削減	-	2.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	3.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	軽量鉄骨+石膏ボード	4.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.6	0.20	-	-	3.6
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含有しない建材が2つ	4.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.5	0.70	-	-	
	1 消火剤	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	押出法ポリスチレンフォーム板の使用	4.0	0.50	-	-	
	3 冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	-	3.0
1	地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率=93%	3.2	0.33	-	-	3.2
2	地域環境への配慮		2.9	0.33	-	-	2.9
	2.1 大気汚染防止	-	3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.7	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	2.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		3.1	0.33	-	-	3.1
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音	-	3.0	1.00	-	-	
	2 振動	-	-	-	-	-	
	3 悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		3.7	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋外に漏れる光についてチェックリストの一部を満たし、広告物照明は行っていない。	4.0	0.70	-	-	
	2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	6.0		○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	4.0		○	○	-	-	○	-	-	-	-	○	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	3.0		-	-	1.0	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0		-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	2.0		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	6.0		-	-	-	-	1.0	-	-	2.0	3.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η)	-
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	0.7
		η AC	1.7
		η AH	-

3.1.1 昼光率

昼光率 1.3%

4.2.2 自然換気性能

自然換気有効開口面積率 12.6%

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース - /人 病床 - /床 シングル - ツイン -

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 - VA/m²

1.2.1 広さ感・景観

天井高 2.4 m

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース - レストスペース -

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 - 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔 15 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔 20 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

3.1.1 階高のゆとり

階高 2.91 m

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 69.0%

3.2 荷重のゆとり

床荷重 - N/m²

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 13% 建物緑化指数 0%

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 56% 水平投影面積率 5% 地表面対策面積率 13% 舗装面積率 46%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI_m - 断熱等性能等級 等級4 相当

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量 - MJ/年m² 採光を満たす教室数 - 採光を満たす住戸数 0.0%

通風を満たす教室数 - 通風を満たす住戸数 0.0%

3 設備システムの高効率化

BPI/BPI_m 非住宅 - 住宅 0.86 太陽光 - 太陽熱等 - 蓄電池 -

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 0.0%

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 0.0%

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 3

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 675

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 155% 隣棟間隔指標Rw 0.23
地表面対策面積率 20.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0%
見付面積Sb 740m² 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 32.01 m 基準高さHb 29.8 m
緑地 69m² 水面 m² 保水性対策面 m² 高反射対策面 m² 再帰性反射対策面 m²